

折に触れ 四字熟語

NO. 98 『天長地久』 てんちょう ちきゅう

< 意味 > 天地の存在は永遠であること。天地が永久であるように、物事がいつまでも続くことのとえ。

< 出典 > 「老子」7章

「天長地久。天地所以能長且久者、以其不自生。故能長生。是以聖人、後其身而身先、外其身而身存。非以其無私邪。故能成其私。」

読み下し：『天は長く地は久し。天地のよく長くかつ久しきゆえんは、その自ら生きざるをもってなり。故によく長生す。ここをもって聖人は、その身を後にして身先んじ、その身を外にして身存す。その私なきをもってにあらざや。故によくその私を成す。』

通 釈：天地は、永遠である。なぜ永遠であるのか。それはほかでもない。天地が生きよう生きようと努めないからだ。聖人もこれと同様である。ひとに先んじようとしないうために、かえって人の先になる。わが身を忘れていたために、かえってわが身を全うする。自己を没却するからこそ、自己を確立できるのである。

解 説：「無私」は「無為」に通ずる。私意を去り、自己を否定することによって、自然のはたらきに一体化するからである。無私の功德の具体例として天地の永遠性が引用されたわけだが、この「天長地久」の一句に基づいて、唐の天宝年間、玄宗皇帝の誕生日を「天長節」と称した。これにならってわが国でも、かつて天皇誕生日を「天長節」、皇后誕生日を「地久節」と命名したものである。

一 言：新年明けましておめでとうございます。お正月らしく前向きな熟語を探し選びました。

参考文献：徳間書店・中国の思想「老子・列子」 三省堂「四字熟語辞典」